2 地域・文化への貢献と農業振興

1．農業振興活動

ＪＡは、農業を基軸とした協同組織です。農業は地域の重要な産業であり、ＪＡは地域農業を振興していくため、次のような事業・活動を展開しています。また、農業は地域の環境保全や青少年の教育などにも有益と考え、農家組合員とともに地域の皆さまが農業とふれあう機会を提供しています。

●ＪＡふじ伊豆自己改革実践計画の取り組み

生産者の意見・要望を反映した品目別振興計画を基に主要６品目（イチゴ・柑橘・ワサビ・水稲・花き・畜産）及び各地区の特性を生かして生産振興を図っていく地域戦略品目21品目の生産振興及び品質・収量の向上に取り組みました。

生産部会の新たな取り組みを支援する「あぐりチャレンジ事業」を実施し、合計で17件18百万円の助成金を交付しました。

組合員を対象として生産資材購入費用を助成する「あぐりサポート事業」において、農業用ハウス導入促進対策、農業機械導入促進対策、有害鳥獣被害防止対策を実施し、合計56百万円の助成金を交付しました。

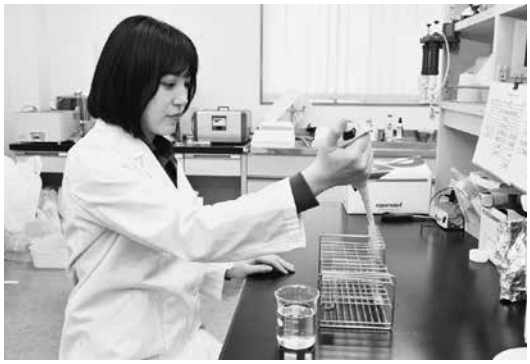
組合員の生産基盤を強化し農業経営の安定・発展を図るため、201件797百万円の新規農業融資を実行しました。

農繁期の労働力を確保するための無料職業紹介所「あぐりキューピッド」を運営し、115件の雇用が成立しました。

■品目別振興計画「水稲」

●安全安心な農産物づくりへの取り組み

ファーマーズマーケット出荷者に対し、食品に関する諸法令、生産履歴記帳等に関する研修を６回、HACCP衛生管理研修会を４回実施し、農薬の適正使用及び食品衛生に関する知識向上に努めました。また、残留農薬自主検査729検体、食品表示検査1,050検体を実施しました。



■残留農薬検査

●農家後継者育成・新規就農者への支援

イチゴ・トマト・柑橘においては、行政と連携して地域受入連絡会を設置し､新たな担い手を育成するための制度である「がんばる新農業人支援事業」を活用して、イチゴ4名・ミニトマト２名の研修生を受入れました。

また、令和６年度は１年間の研修を通じて、合計６名のニューファーマー（新規就農者）が誕生しました。

■ニューファーマーの誕生

●地産地消への取り組み

ファーマーズマーケットでは、毎月12日・22日を「JAふじ伊豆の日」と定め、地域で生産される農畜産物のPRや規格外商品の販売会を実施しました。

また、青壮年部や女性部による食育イベント、各地区での農業体験イベントの開催により、地域の農畜産物への理解醸成につなげました。

■田植え体験

●地域農業と触れ合う機会の提供

青壮年部は、将来を担う子どもたちが農業を学び触れ合い、理解するために食農教育活動を全地区において行い、水稲・サツマイモ・イチゴ・ワサビ・柑橘・ジャガイモなどの地域農産物の栽培、収穫体験などを行っています。

女性部は、地域の子供やお年寄りへのお弁当の提供やフードドライブなどの助けあい運動、料理教室・目的別活動などの各種女性講座、食農教育活動など各地区特色ある活動を展開しています。

JAふじ伊豆では「静岡茶講座」を実施し、管内の小中学校などで静岡茶のおいしさや歴史等に触れ、学校や家庭にて、急須でお茶を淹れて飲む愛飲習慣の定着を図りました。また、食と農を学ぶ農業体験学校として、小学３年～６年生を対象とした「あぐりスクール」を開催し、農業を通じて作物を栽培する大変さや収穫する喜びを体験する機会を提供しています。

農業祭・農協祭を、組合員や地域住民との絆を深め、交流により農業への理解と生産者と消費者を結ぶ場として全地区で実施しています。

■イチゴ収穫体験

■静岡茶講座

■農業祭・農協祭にて地場農産物即売

２．地域貢献活動

ＪＡは農業者を中心に地域の皆さまが組合員となって、お互いに助け合い、お互いに発展していくことを共通の理念として運営される協同組織であり、農業・地域の活性化に資する地域金融機関を目指しています。

また、皆さまからお預かりした貯金等の資金は、資金を必要とする組合員や地域の皆さまなどにご融資し、農業、事業や暮らしのお手伝いをさせていただいています。

ＪＡは金融ばかりでなく総合的に事業活動をしています。また、農業や地域の活動を通じて、次のように地域社会・文化への貢献に努めています。

(1) 社会貢献情報

●交通安全宣言書の提出

秋の全国交通安全運動に合わせて、本店・各地区本部にて所轄警察署へ「交通安全宣言書」を提出しました。役職員とその家族が安全運転を宣言するもので、毎年実施し、交通安全機運を高めています。令和６年度は、合計2,505世帯、6,356名分の署名を提出しました。

■交通安全宣言書提出

●こども食堂へ野菜を寄付

管内４地区（三島函南地区・伊豆の国地区・御殿場地区・富士地区）では、農福連携事業の一環として、ファーマーズマーケット・女性部・青壮年部等を通じてこども食堂への食材の寄付やお弁当の提供を行っています。こども食堂は、孤食の子どもへの支援だけでなく、食育活動や地域コミュニティの活性化にも寄与しており、重要な社会活動として注目を浴びています。

富士宮地区では、「う宮～な」出荷会員の規格外品の野菜を市内の小中学校等に提供する「フードサイクルコミュニティ事業」を行っています。このような活動は、フードロス削減や地産地消の取り組みとしても重要であり、今後も活動拡大に努めていきます。

■フードサイクルコミュニティ事業

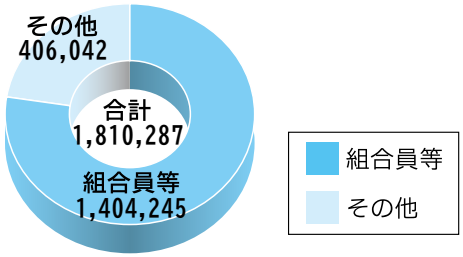
(2) 地域貢献情報

●地域からの資金調達の状況

組合員をはじめ利用者の皆さまからお預かりした貯金の残高は1兆8,102億87百万円です。資格別貯金等残高の内訳は右のグラフのとおりです。

貯金残高

（単位：百万円）

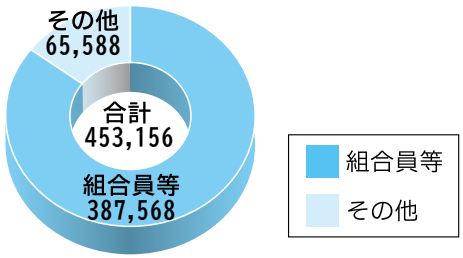


●地域への資金供給の状況

組合員をはじめ利用者の皆さまへご融資した貸出金の残高は4,531億56百万円です。資格別貸出金残高の内訳は右のグラフのとおりです。

貸出金残高

（単位：百万円）



●地域密着型金融への取り組み

地域農業者との結び付きを強化し、地域農業活性化のため、各種農業資金を提供するとともに、農業制度資金の取り扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。

また、担い手金融担当者を設置し、営農部門と連携しながら担い手農業者に対する資金ニーズ等を把握し、農業振興や資金対応を行うことに努めています。

●文化的・社会的貢献に関する事項

将来を担う子どもたちに地元の素晴らしい農産物に対する誇りを持ってもらい、農業に対する理解を深めてもらうことを目的として、小中学校への出前授業の実施や地元の小学校等を対象に特産品のミカン、米、茶、ワサビ、ミニトマトなどを寄贈しました。

■青壮年部部員による出前授業

■ミカン寄贈（清水町）